

平成18年度
学校経営計画
(まとめ段階)

京都府立峰山高等学校
弥栄分校

平成18年度 京都府立峰山高等学校 弥栄分校 学校経営計画 (まとめ段階)

学校経営方針(3～5年の中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>全教育活動とおして、生徒・教職員がともに成就感と感動を味わえる、明るくさわやかな学校づくりに努める。</p> <p>[地域と連携した弥栄キャンパスの教育]</p> <p>① 分校の特色であるきめ細かな指導による、地域の教育要求に応える教育の推進</p> <p>② 校種間、専門機関と連携した、地域と一体となった教育の推進</p> <p>[農園芸・家政・環境教育を生かした魅力ある教育と個性を生かす教育の推進]</p> <p>① 農業の多面的機能を視野に入れた農業教育の実践</p> <p>② 省エネ・環境保全型社会に対応した環境及びエネルギー教育の実践</p> <p>③ 家政科における生活産業分野で活躍できる人材の育成</p> <p>[自立精神の育成]</p> <p>① 人を大切にし、同時にモノを大切にす人材の教育</p> <p>② 主体性と社会性を兼ね備え、向上心に富む人材の育成</p> <p>[特別教育活動の充実]</p> <p>① 部活動や生徒会活動を活性化し、望ましい集団活動をととした集団の一員としての規律・マナーの育成</p>	<p>[成果]</p> <p>○ 全ての3年生に勤労観・職業観「働くとはどういうことか」についての回答を持たせるようにした。</p> <p>○ 地域と連携した専門学科の取組、地域に開かれた文化活動の推進(奈良丘祭など)</p> <p>○ 全総文プレ大会「ピンワークディスプレイ」の成功</p> <p>○ 評価導入による学校・教職員の改善点の明確化</p> <p>○ 和、郷土の文化、環境学習の教材化とエネルギー教育の充実</p> <p>○ 外部講師の活用による魅力ある授業の創造</p> <p>○ 生徒授業評価導入による「わかる授業」の創造</p> <p>○ 学校HP・奈良丘通信による広報活動の推進</p> <p>○ ボランティア活動の推進</p> <p>[課題]</p> <p>○ 幼・小・中学校との校種間連携の推進</p> <p>○ 「わかる授業に」に向けた一層の授業改善と評価規準の作成、成、教科の評価方法や年間学習目標の徹底</p> <p>○ 学業不振・欠席時数オーバーに起因する中退・原留防止のための指導</p> <p>○ 社会人として通用するマナー、他者への思いやりの精神の育成、規範意識の向上と指導困難生徒への指導徹底</p> <p>○ 教育相談のあり方、特に心に問題を持つ生徒への対応</p> <p>○ 特別活動、部活動の活性化</p>	<p>① 「わかる授業」の創造(シラバス・評価規準作成、授業改善)</p> <p>② インターンシップの実施</p> <p>③ ボランティア活動の充実・発展</p> <p>④ 特別活動、部活動の充実と活性化のための指導者の環境改善</p> <p>⑤ 人の話を聞く態度等の規範意識、他者への思いやりを培う高校生活の推進</p> <p>⑥ きめ細かな指導と教育相談機能の整備</p> <p>⑦ 全国高等学校総合文化祭の取組推進</p> <p>⑧ 高校生活充実のための指導の保護者への協力要請と連絡徹底</p> <p>⑨ 配慮を要する生徒への定期的な指導、教育相談</p>

分掌名	評価領域(業務領域)	項目(重点目標)	具体的方策	評価	成果と課題	
0	組織・運営	学校評価や教職員評価を実施し、改善点を明確にし、具体化を図る。	学校評価会議・庶務部と連携し評価結果から改善点を具体化する 生徒の授業評価の定着を図る。 教職員評価を実施する。	C B B	B	授業評価の年2回実施は定着した。授業改善の工夫につなげる方策を検討したい。 適応会議は学期に1～2回の開催であった。回数増が課題。部活動活性化は具体的計画が必要である。 奈良丘通信は予定通りに10号まで発行できた。中学校訪問は、効果的な時期に出来るよう努力が必要である。 教職員定期検診の午前中実施が10月に実現できた。 生徒の危機管理意識の定着は、改善の余地がある。
		各分掌間が連携した、生徒への対話、相談、指導体制を確立する。	配慮を要する生徒への定期的な指導、相談体制を確立する。 部活動、特別活動の活性化の為の環境作りを図る。	C C		
		開かれた学校づくり、目的意識のある生徒及び高校生活充実のため中学校、家庭との連携を深める。	「奈良丘通信」を発行し、家庭や中学校など関連機関に配布する。 中学校を定期的に訪問し、在校生の指導や募集活動に生かす。 学校評議員会活動を周知し、分校の教育活動に生かす。	B C B		
		教職員の健康、生徒や学校の安全管理を徹底する。	教職員の定期健診等健康のチェックを促す。 施設・設備の定期点検を行い、学習環境の維持・改善を図る。 防災・防犯等の訓練を効果的に行い、生徒、教職員の危機管理意識をの向上を図る。	B B C		

分掌名	評価領域 (業務領域)	項目(重点目標)	具体的方策	評価		成果と課題	
1	教務部	授業規律	授業規律を確保する。 50分の授業時間を生かす。 授業環境を整える。	A	B	担任の協力を得て、気持ちよく授業が出来るように放課後の教室点検(消灯、机整理・私物整頓)、清掃が課題である。授業は時間一杯有効活用されている。落ち着いた授業に取り組めた。一部には学ぶ姿勢の未確立を残している。遅刻・怠学は昨年に比べかなり減少できた。教科担当が担任連絡という気持ちで、クラス出席簿への出欠の即日転記が課題である。きめ細かい指導の結果、指導に乗る生徒が増えているが、人間関係のトラブルや無気力による出席不良・成績不振となる生徒が少なからずいる。	
		学力向上	生徒の学力向上を図る。 全ての生徒に基本的な学習の姿勢を確立させる。 進路指導部・教科と連携し学力分析を行い、授業に生かす。 シラバスを発行する。	C A A			
		遅刻・怠学の防止	遅刻・怠学を防止する。 1校時の出欠状況を把握する。 クラス出席簿への即日記帳を徹底する。 遅刻の多い生徒、怠学の生徒に対して家庭連絡する。 保護者の協力で生活改善指導をおこなう。	A C B A			
		中退・原留防止	きめ細かい指導で可能な限り中途退学・原級留置を減らす。 再履修生徒に出発式を行う。 1年生に単位・進級の知識を得させる。 成績・出席不良者に2学期始まる前に学習指導を行う。	A A C			
		漢字テスト	校内漢字テストを実施し、基準に達した生徒・クラスを表彰する。 漢字テストを月1回、年9回実施する。 年1回個人表彰、学期ごとにクラス表彰する。	A A			
		学校間連携	中学校・小学校との連携を図る。 中学校・小学校を訪問し連携を深める。	B B			
		2	生徒指導部 (含む人権教育)	人権教育	教師・生徒共々人権意識を高める。 学期に1回の人権学習を行う。 年間計画を早期に作成し、担任との連携を図る。 外部講師を招き、教員研修を行う。		B B C
特別活動	各種行事を通じて、学年の自覚と主体性・協調性や責任感を育成する。 部活動の活性化を図る。 球技大会・学校祭・奈良祭等の学校行事を計画的に実施し、学年・クラス、科で取り組ませる。 部活動の時間を確保し、顧問が部活現場に付きそう。			B B			
生徒指導	窃盗・喫煙等の問題行動の防止する。			巡回指導を日に3回、全教職員で月に1週間を実施する。喫煙防止体験教室を開催する。	B	B	
	授業規律の向上を図る。			規律が守れない生徒には早期に指導し、4月は授業中も巡回指導を行う。	B		
	身だしなみ(服装・頭髪等)や携帯電話等学校生活のルール・マナーの向上を図る。			ルールを徹底し、保護者等も召喚し指導する。	B		
	生命の大切さを自覚させ、健全な人間関係を育成する。			全体集会等で話をすると同時に、ホームルーム等で討議させる。	C		
	通学マナーの向上を図り、交通事故を防止する。			学期に1回程度街頭指導を実施、交通安全教室を開く。	C		
挨拶・丁寧な言葉遣いを励行する。	朝には、教員が率先して挨拶をし、教室・職員室等で、言葉遣いが悪ければなおさせる。	B					

分掌名	評価領域 (業務領域)	項目(重点目標)	具体的方策	評価		成果と課題	
3	進路指導部	キャリア教育	様々な体験からキャリア(勤労観・職業観)育成を行う。	「働くとはどういうことか」考えさせる。 「なぜ進学するのか」考えさせる。	B B	B	3年間の進路指導及びキャリア教育の成果や進路指導部として3年生の面談や希望調査等を行い生徒の希望を把握したことが1月末での就職・進学とも100%希望進路実現に結びついた。 説明会、ガイダンス、マナー講習を職安所員や専門学校教員を講師に開催した。生徒も比較的真面目に話を聞くことが出来た。 学力分析は時期は遅くなったが実施できた。分析結果をどう生かすかが課題である。 インターンシップは4名の生徒が参加し、一定の成果を残すことができた。「探求」などの授業で進路を意識した取組を実施しているが、その定着及び継続した意識付けが課題である。
		進路実現	希望進路の実現	3年生の希望進路の実現 2年生：フリーター防止講座の実施 1年生：一人ひとりに目標を持たせる指導を行う	A B B		
		進路説明・ガイダンス	進路HR・ガイダンスを行う。	各学年とも進路ガイダンス(説明会・講座)を実施 学年部と研究・協議し進路HRを実施	B B		
		学力分析	学力分析し、学習・進路指導に役立てる。	2・3年生は4～5月実施 1年生は6～7月実施	B B		
		面接スキル	模擬面接の実施、敬語力・面接力の向上	探求Ⅰ：発声トレーニング、模擬面接、敬語レッスン 探求Ⅱ：プレゼントレーニング、模擬面接、敬語 3年生：集団面接、個別面接、仕上げ面接	C B B		
		あいさつ・マナー	生徒に、集団生活を意識させ、「他を思いやる心」を育てる	さわやかな挨拶ができるようにする。 「はい」という返事をできるようにする。 椅子を元に戻すようにさせる。	C B C		
		インターンシップ	インターンシップの実施	事前・事後の指導を行う。 職場での就業体験実習を行う	A A		
		4	図書情報部	組織・運営	学校経営方針を作成し、教職員に徹底を図るとともに「学校評価」を実施する。開かれた学校作りの中で、目的意識のある生徒の募集活動を行う。		
図書館管理	学校の特色を活かした図書館運営			専門学科教育のさらなる発展のため、農業・家政の関連書籍を重点的に充実させる。	A		
読書等指導	読書習慣及び自発的学習態度を育成する。			年1回の「読書の時間」を設定し、読書を推奨する。	A		
				「図書館便り」や教職員推薦図書を紹介する「立志」などの発行により、図書館の利用を活性化させる。 豊かな人間性を育成するため、年1回の「芸術鑑賞」と、年1回の「ビデオ鑑賞会」を実施する。 各教科の「調べ学習」等に必要な資料を提供するため、公立図書館等との連携を図る。	B A A		
5	保健部	健康・安全教育	生涯を通じて心身ともに健康で安全な生活を営むことができる資質を養う。	健康診断の結果をふまえた健康教育を行う。 薬物乱用防止、喫煙防止、性(エイズ)教育の推進 環境美化の推進とゴミの減量を目指す。	B B C	B	教室の整理整頓が不十分で、清掃もできていないこともある。(1-1.1-2.2-1) エイズ、性教育等の講演会は体育館ではなく、視聴覚室などで実施したい。 外部の教育相談を3名受けて、2名は効果が見られた。各学校にスクールカウンセラー等の専門家の配置が必要だと思う。 救急措置、来室者への対応、文書整理等はほぼできた。
		教育相談	心に問題をもつ生徒への対応を充実させる。	担任と連携し、心の問題をもつ生徒の早期発見、早期対応に努める。 相談等がしやすい環境づくりを行う 家庭、専門機関と連携をはかり対応する。	B C B		
		保健室管理	望ましい保健室経営を行う。	的確な救急処置を行う。(内科的、外科的、その他)	B		
				保健室に相談に来る生徒に対して丁寧に対応する。	B		
				健康診断表、その他健康に関する書類、公文書等の的確な管理を行う。	B		

分掌名	評価領域 (業務領域)	項目(重点目標)	具体的方策	評価		成果と課題	
6	庶務部	開かれた学校づくり	学校行事の円滑な運営 PTA活動の活発化	学校行事の実施にあたって円滑な運営に努める。 保護者との連携を密にし、PTA活動への積極的な参加を促す。	B B	B	行事などの連携調整については、後手後手になった感じも否めない。また、PTAの会合の集まりが悪くなっている所以对策が必要である。 評価システムの把握ができておらず、いつも追われるような状況であった。
		学校評価	学校評価システム円滑な運用	業務表及び各評価表の作成依頼・とりまとめを行う。 評価会議に向けた各種準備を行う。	B B		
		農場運営	農場収入の増大をはかる取組を行う。	生産物の品質向上を図る。 出荷数の増大をはかる。(売り切る) 新作目を導入する。	B B B		
7	農場部 (含む教科)	学校教育の推進	ボランティア活動を推進する。 奈具丘祭の取組を充実させる。	丹後あじわいの郷「フルーツフラワーガーデン」の整備・維持管理を推進する。 国道482号線(高校下)花壇の飾花活動を行う。 奈具丘祭をさらに充実させ、意義深い行事に創り上げる。	B B B	B	各生産物の商品化率向上と、完売のための数量・方法を再度検討したい。 あじわいの郷における校外実習の内容を学年毎に工夫したい。 奈具丘祭は目新しい取組に欠けたが生徒主体の内容を再度検討したい。 課題研究は生徒数の面からテーマ数が少なく、やや競争心に欠けた面がある。 年間を通して実習前及び授業前に服装点検などを実施した。
		教科指導	プロジェクト学習と課題研究を充実させる。 授業や実習中におけるルール・マナーを向上させる。	少人数講座の開講に伴い、一人一人に行き届いた指導を行う。 作業の安全をはかるため、服装・髪などの身だしなみを整えさせる。	B B		
		家政部(含む教科)	生活産業で必要とされる基礎力が身につく教材の研究をする。 各教科の評価規準を作成し、「わかる授業」の実践をしていく。 課題研究の指導方法について研究をする。	小・中で学ぶ家庭科の基礎知識・技術と関わらせながら、家政科での学習内容について検討する。 分野ごとの基礎知識・技術が定着できる指導をする。 各科目の評価規準を作成し、C評価生徒への手立てを検討する。 生徒が自主的・主体的に取り組めるテーマ設定と取り組む時間も考慮した研究にする。	C B B		
8	家政部(含む教科)	教科指導	家庭クラブの自主的なボランティア活動を推進する。	生徒の教科学習と関わらせながら行事・事業に取り組む。 丹後地域の課題を先見した家政科教育の研究を行う。 生徒たちが広い視野を持ち、自主的・意欲的に活動できるよう援助する。	A B B	B	生徒の基礎力を具体的に評価する中で、伸ばす取り組みは出来た。小・中学校との系統性についての研修時間がとれていない。 全総文は、年度当初からの計画通り生徒達の教科学習と関係づけて進めることができ、生徒には大変良い経験となり良かった。 丹後地域の生活課題についてさらに研究し、教材化していきたい。 家庭クラブ活動は、役員選出についての課題が残ったので、さらに生徒が自主的に活動できるクラブを目指していきたい。
		学科教育の推進	家庭クラブの自主的なボランティア活動を推進する。	生徒たちが広い視野を持ち、自主的・意欲的に活動できるよう援助する。	B B		
		第1学年部	生活指導	規律ある高校生活の樹立	無断欠席、遅刻・早退がないように指導する。 掃除をしっかりさせる。 自分の役割を果たせる指導をする。		
9	第1学年部	学習指導	家庭学習の習慣化と基礎学力の定着	自分の進路について意識させるよう指導する。 漢字テストをクラス・学年で取り組む。 面談等を通じて意欲を喚起する。	B C A	B	学校が落ち着くにつれて無断欠席は減少した。ある一定の成果は出たと思われる。 成績面では年間を通じて振るわない生徒も多かった。面談を通じて学習意欲の向上につとめた。
		第2学年部	学習指導	落ち着いた学習環境を保ち、授業に集中させる。 進路目標を明確にさせ、学力の向上を図る。	C B B A		
10	第2学年部	学習指導	自主性と自立性を育成する学級指導を行う。 保護者と協力関係を築く。	良い人間関係を築かせ、クラス、学年討議の形を作り上げる。 行事の取組を委員中心に行うよう指導する 当番活動を定着させる。 保護者に学校の様子を理解していただく。	B B B D	C	学習面、生活面の両方において同じ歩調で指導をおこなってきたにもかかわらず、その定着は1組(男子)と2組(女子)の間で大きな差が生じた。 文化祭、3年生を送る会などの行事については、学年としての意見をまとめ実行委員を中心に組み立てることができた。
		生活指導	自主性と自立性を育成する学級指導を行う。 保護者と協力関係を築く。	良い人間関係を築かせ、クラス、学年討議の形を作り上げる。 行事の取組を委員中心に行うよう指導する 当番活動を定着させる。 保護者に学校の様子を理解していただく。	B B B D		
		生活指導	自主性と自立性を育成する学級指導を行う。 保護者と協力関係を築く。	良い人間関係を築かせ、クラス、学年討議の形を作り上げる。 行事の取組を委員中心に行うよう指導する 当番活動を定着させる。 保護者に学校の様子を理解していただく。	B B B D		

分掌名	評価領域 (業務領域)	項目(重点目標)	具体的方策	評価		成果と課題	
11	第3学年部	進路指導	各自の進路希望を把握する。 各自の課題について明らかにし、家庭と連携しながら適切な指導を行う。	A	A	進路指導部と連携し、全員の進路が決定し、大変良かった。 3年生の卒業前に進路変更した生徒が2名もあり、学年・クラスの協力や団結を促す経営に課題が残った。	
		学習指導	進路につながる学力の向上を図る。	C			
		生活指導	最高学年としての自覚を持たせ、リーダーとしての役割が果たせるように指導する。	B	B		
			修学旅行の取組を通して、自主性と規律を身につけさせる。 学校祭・奈具丘祭などの行事で責任ある行動ができる。	B			
12	事務部	施設・設備管理	安心、安全な校内生活環境の整備に努める。 施設設備の安全点検をする。	C	C		校内を適宜巡視しているが、系統的な状況記録まで至っていない。 過年度文書が多く、現在整理中である。 学校訪問者はほとんど限られた人が多く、なれ合い的である。
		提出書類管理	文書事務の徹底と簡素化を図る。 保存期間の経過した文書は適切に廃棄する。	B			
		組織・運営	親切、丁寧、迅速に対応する。 記録簿の記入やカードの携帯の励行を呼びかける。	B			
13	国語科	学習指導	様々な文章に触れさせ、国語を的確に理解し適切に表現する能力を育成する。 校内漢字テストと連動し、基本的な漢字の読み書きが出来るよう指導する。 ことわざ・四字熟語など語彙量を増やす指導をする。 漢字能力検定の受検を推奨する。 進路指導部と連携して、敬語指導を強化する。	B	B		校内漢字テストと連動し、漢字指導はほぼ予定どおりできた。 図書情報部と連携した読書指導は意識して、取り組んだが、予定したほど冊数や読書感想文の提出数は伸びなかった。
			積極的に読書させ、人生を豊かにする態度を育む。	B			
			伝え合う力を高めさせ、思考力を伸ばし心情を豊かにさせる。	C			
			自分の考えを論理的に述べられるよう、スピーチ指導を強化する。	B			
14	地歴・公民科	学習指導	わかる授業の実践 ポイントを単元ごとに示し、その要素となる基本的知識を板書時色分けする。 可能な限り、具体的教材を準備する。 参考となる文献、映画の紹介をする。	A	A	わかる授業として、予定した内容は大体できた。教材の精選と併せた作業プリント(特に日本史、現代社会)が課題。 過年度世界史不認定生徒の意欲を引き出し、卒業させることができた。全体的に学ぶ姿勢は確立できた(1,3年)が、一部未確立の生徒(教材を持ってこない、集中できない、ノートをとらない)の指導が課題。	
			確かな学力をつけ、進級・卒業させる。 診断テスト・基礎力テスト・補習を実施する。 1・2年:基本的学習習慣をつけさせる。 現代社会:教育内容の精選をする。	A			
					B		B
					B		
15	数学科	学習指導	授業規律を守り、積極的に学習に取り組む姿勢を育てる。 授業のルール・マナーも成績に反映する。 板書は見やすく工夫する。	B	B	解ろうとする積極性は少し芽生えたが、「数学は解らなくて当たり前」という先入観を持つ生徒が多く、その先入観を払拭できていない。まだまだ工夫がいる。	
			基礎学力の向上を図り、社会生活に対応できる数学的知識を身につける。 練習問題を増やし、生徒間で教え合う時間を設ける。 宿題を適度に出し、家庭学習を促し、点検をする。 ミニテストできるだけ行う。	C			
					C		C
					B		
16	理科	学習活動	身近な動植物の名前を覚えさせる。 実験回数を増やす。 視聴覚教材の活用	B	B	実験に取り組む姿勢をつくる事が出来ず、回数が減ってしまった。薬品類が少なく実験の種類が限定された。	
			B				
			B				

分掌名	評価領域 (業務領域)	項目(重点目標)	具体的方策	評価	成果と課題				
17	保健 体育科	学習活動 (体育)	各種目の特性に合った感覚つくりを準備運動に取り入れ定着させる。 順次性を考慮した指導で、出来る方法を理解させ習熟させる。 用具の準備・片付けをはじめグループ(チーム)学習で、協力したり責任を果たすことを学ばせる。 地域性を生かし1年生でスキー教室を開催する。	B B B	B	<p>予定したことは、ほぼ順調にすすめることができた。スキー教室は、2学期末より準備を進めていたが、雪不足のためやむなく中止となった。3年間に一度は体験させたい。現1年は次年度検討したい。</p> <p>2学期の課題学習は、3学期に持ち越しの生徒が2名いたが、3学期の指導で全員が修了した。自分で調べて発表する機会になっており、次年度も実施したい。</p>			
		学習活動 (保健)	個人及び集団の健康および健康的な社会環境づくりの重要性について、理解を深めるとともに心身の健康増進の実践力を養う。 わが国における健康の現状と対処・予防法を理解させる。 「性」について人間の生と関連させて理解させる。 自然環境・労働環境と健康についての課題学習を実施し、調査とまとめの仕方や発表を学ばせる。 働くことと健康の問題を理解させる。	B B B					
	芸術科	音楽	音楽の基礎的な能力を習得し表現に活かす。 読譜・視唱の時間を設定する。 器楽アンサンブルや合唱に取り組む。	B B			B		
		美術	授業で製作する作品の質的向上を図る。 デッサン基礎 I :コンクールに応募する機会を与えることで、向上心を育てる。 ポスター製作:コンクールに応募する機会を与えることで、向上心を育てる。	A A					
18	書道	書写能力を高め、書の表現の基礎的な能力を伸ばし、書を愛好する心情を養う。	1学期は臨書活動を中心に書写に取り組む。 2学期は実生活で多用する行書体をマスターする。 3学期は漢字仮名交じり文や隷書を学び、創造力を高める。	B B B	B				
			英語科	学習指導		日々の授業において指導工夫と改善を行う。 進学希望生徒及び低学力生徒に対応した学習指導を行うために、随時学習プリントを作成し授業内容の理解を図る。 各授業において板書の仕方を見やすく工夫する。 各単元毎に課題(レポート)を出し、語句の小テストを実施する。	B B C	B	<p>今年度は学習習慣を定着させるために全学年に渡り各種プリントを作成し、単元毎に提出を課した。提出率は良好であったが、成績の格差をなくすことはできなかった。1年生については教科書外の単語テストを課し、基礎学力の定着を図った。</p>
						<p>・授業評価等を活用し、「わかる授業」につながる授業改善を進める。</p> <p>・配慮を要する生徒を組織的に支援する体制を確立する。</p> <p>・専門高校の楽しさを伝える広報活動を充実する。</p> <p>・奈良J丘祭、ボランティア活動など地域との連携を一層強める。</p>			
次年度に向けた改善の方向性									